Antelope

Owner's Manual

ORION 32

32 Channel AD/DA Converter

with AFC™ Clocking Technology

www.AntelopeAudio.com

オーナーズマニュアル

目次

1. 製品を安全にご利用いただくために.....5
2. はじめに.....6
3. 製品の特徴.....7
4. クイックスタート.....8
5. フロントパネル.....9
6. リアパネル.....10
7. ソフトウェア・コントロールパネル.....11
8. 高度な技術情報.....18
    8.1. グランドループハム・ノイズ.....18
    8.2. キャリブレーションの手順.....18
9. 追加情報.....18
10.同梱品.....19
11. 技術仕様.....19
12. トラブルシューティング.....20
13. サポート.....22

1. 安全にご利用いただくために

感電・火災などのリスクを減らすためにご一読下さい。

- ねじを外したり、カバーを開けないでください。ユーザー様ご自身で修理できるパーツはございません。修理や調整が必要な場合はテクニカルサポートまでご連絡ください。
- 水に濡れる可能性がある場所や、湿度の高い場所にさらさないでください。
- 万が一、異物や液体が製品に混入した場合は直ちに電源を落とし、コンセントを抜いてください。異物や液体が完全に取り除かれるまでは使用を控え、メーカーまでご連絡ください。火災や致命的な故障の原因となります。
- 濡れた手で電源ケーブルに触れないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しする場合は、必ず本体の電源スイッチを落とした状態で行ってください。
- 本体の上に物を置かないでください。また本体は、周辺機器の動作に影響を与えそうな狭く換気の乏しい場所での使用はしないでください。
- 故障が起きたときはまず電源を落とし、電源ケーブルを抜いてください。自分で直そうとせず、テクニカルサポートまたはディーラーまでご連絡ください。
- 暖房器具からの熱風が直接あたる場所や、パワーアンプの近くには設置しないでください。
- お掃除の際には強い化学薬品は使用せず、電子機器専用のクリーナーをご使用ください。
- 本体の電源を入れる前に全ての周辺機器を接続してください。
- 本製品の電源ケーブルはアースが接続されています。アースを取り付けずに本製品を使用しないでください。
- 電源ケーブルは人が踏んでしまうような場所や、他の物が上に乗ることのないように設置、接続するようにしてください。
- 本製品の電源を完全に落とす場合は、本体の電源を落としてからコンセントを外し、本体から電源ケーブルを抜いてください。
- ヘッドフォンやモニターを通して頻繁に、または長時間大きい音量・音圧に耳を晒してしまうと聴覚器官の損傷の恐れがありますので、くれぐれもご注意ください。
- 持ち運び、運送の際には必ず本製品をラックから外してお持ちください。
- 本製品は下記の温度環境で動作するように設計されています

  0–50 ℃、32–122 ℉

2. はじめに

この度は Antelope Audio の Orion32 をお買い上げ頂き、ありがとうございます。

Orion32 は32チャンネルのAD/DAコンバータ、オーディオマスタークロックであり、MADI、USB に対応し、Antelope の 64–bit Acoustically Focused Clocking (AFC) 技術が採用されています。

Orion32 カスタムUSBチップを採用したことで、最大32チャンネル、192kHz 同時I/Oストリーミングが可能です。また、本製品は光デジタル (オプティカル) MADI 接続により最大64チャンネルもの入出力に対応しています。

Orion32 は最大16チャンネルの ADTA入出力をサポートし、D–SUBコネクターの各端子、8チャンネルずつアナログ信号を接続することができます。

Orion32 は高品質のオーディオコンバーターでありながら、 オーディオクロックでもあります。4つのワードクロック出力と、10Mhz入力により Orion32 はあらゆるプロジェクトや高水準スタジオにおいて主要な役割を担うことが出来ます。

Orion32 の持つ優れた柔軟性は各デジタル機器間をスームレスに統合します。本製品の設定管理は Mac/Windows 用のアプリケーションから可能になります。さらに、マルチモニターミキサーと EQ、コンプレッサー、リバーブなどを含む内蔵DSPエフェクトが搭載されています。

詳しい情報、線品サポート、背品の登録につきましては弊社ホームページよりご利用ぐださい。
www.antelopeaudio.com.

それでは、Orion32 の素晴らしいサウンドと豊富な機能をお楽しみ下さい。

Antelope 発開チーム

3. 主な仕様

- Antelope Audio の精密な AD/DA 変換テクノロジー
- 64チャンネルの光ファイバー MADI 搭載
- カスタム仕様のUSBチップ経由、最大32チャンネル 192kHz 入出力
- 32チャンネル AD/DA 変換を 1Uサイズで実現
- 最大16チャンネルの ADAT 入出力
- 2チャンネル入出力の S/PDIF 搭載
- Antelope Audio の代名詞、64-bitAcoustically Focused Clocking Technology 搭載
- Antelope 独自のオーブンコントロールオシレーターを搭載し、圧倒的な安定度を実現
- ワードクロック出力×4、ワードクロック入力×1、アトミック入力×1 搭載
- 簡単にリコールできる5つのプリセット領域
- 1Uラックサイズでありながら消費電力わずか20W、発熱量を大幅に減らした省エネ設計
- 簡単に操作できる Windows/MacOSX 対応のデスクトップアプリケーション
- 柔軟性の高いルーティング、ミキシング機能
- 直感的な操作が可能なソフトウェアコントロールパネル

4. クイックスタート

Orion32 機能を活用するために、はじめに以下の手順にしたがってセットアップを行います

1. リアパネルにUSBケーブルをつなぎ、パソコンのUSB2.0ポートへ接続して下さい。
2. Orion32 用のソフトウェア・コントロールパネルを
   http://www.antelopeaoudio.com/en/support/downloads
   からダウンロード、インストールして下さい。本機操作のためには必要不可欠です。
3. 使用する機器を全て接続して下さい。
4. USBケーブルでパソコンと接続すると、新しいデバイスとしてパソコンが自動的に Orion32 を認識します。パソコンから音を Orion32 に送るためには、パソコン側の出力ををリダイレクトさせる必要があります。
5. Orion32 をパソコンを使って録音再生で使用する場合は以下の指示に従って下さい。

Windows :

http://www.antelopeaoudio.com/en/support/downloads　へアクセスして下さい。
リストの中から Orion32 custom ASIO driver をダウンロード、インストールして下さい。
パソコンのスタートメニューから以下の順番で選択します。
コントロールパネル / サウンド、オーディオデバイス / サウンドとオーディオデバイス Orion32 が初期設定のオーディオデバイスになっているか確認して下さい。

Mac :

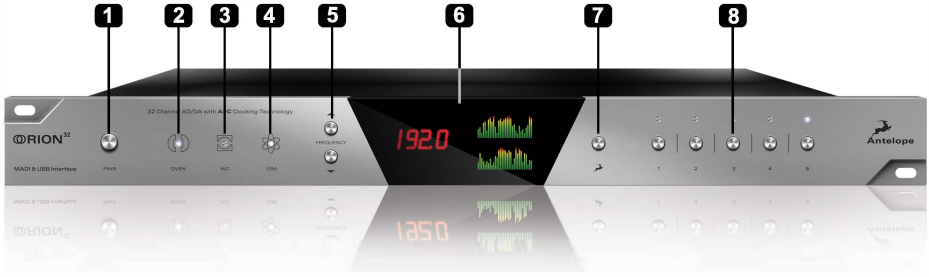
http://www.antelopeaoudio.com/en/support/downloads　へアクセスして下さい。
このページの中に Orion32 をUSBオーディオとして使用する方法が記載されています。
アップルメニューからシステムプリファレンスを開き、サウンドを選択します。次にアウトプットタブを開き、一覧より Orion32 を選択して下さい。

アクティベーション

本機はアクティベーションが完了しないと使用できません。

1. コントロールパネルをインストールして起動すると初期設定画面が開きます。
2. "Create Antelope ID" のポップアップメッセージが出るので、指示に従い、アカウントを作成します。Continue で次のページに進みます。既にアカウントをお持ちの方は "Use existing Antelope ID" から次のページに進みます。
3. ご登録いただいたメールアドレスに Antelope からご登録アドレスにメールが送られます。メールに記載されているリンクをクリックし、メールアカウントの確認を行います。
4. コントロールパネルでは "Sing in with your Antelope ID" というページが出るので、ご登録いただいた Username と Password をご入力いただき、Continue でさらに次のページに進みます。既にアカウントをお持ちの方は既存のものを入力して下さい。
5. "Activate your device" という画面に進み、ご購入日、ご購入店、御購入金額、為替、ご使用のDAWの情報をご入力して下さい。
6. "Done" を選択していただき、アクティベーションは完了です。

5. フロントパネル



1. 電源ボタン

ボタンを押すごとにスタンバイとオンが切り替わります。

2. オーブンクロック・ロックLED

点灯時は Orion32 が内蔵のオーブンクロックで動作しています。

3. 同期ロックLED

点灯時は Orion32がリアパネルに接続されたデジタル信号に同期しています。※USBは除く

4. アトミック・クロック (10MHz) 同期ロックLED

点灯時は Orion32 がリアパネルの 10M入力端子に接続されたアトミック・クロックに同期している状態です。この時 [2] のオーブンクロック・ロックLED は自動的に消灯します。

5. サンプルレート切り替えボタン

この2つのボタンでサンプルレートを切り替えます。
選択されたサンプルレートは [6] のディスプレイに表示されます。
サンプルレートは、32、44.1、48、88.2、96、176.4、192kHz から選択できます。

6. ディスプレイ

この多機能ディスプレイでは、左側にサンプルレート、右側に入力と出力ボリュームを各32チャンネル分上下に表示できます。表示設定はソフトウェアから変更できます。

このディスプレイには保護フィルムが貼ってあり、この状態では表示が若干暗くなるので、必要に応じでお剥がし下さい。

7. アンテロープボタン

多機能のボタンです。プリセットとの組み合わせにより下記の機能があります。

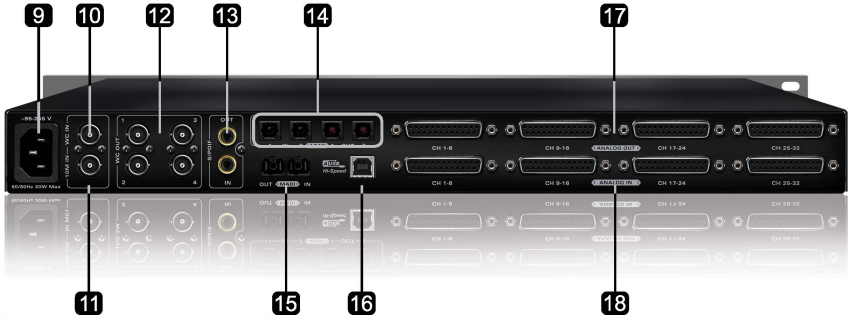
1. アンテロープボタン ＋ プリセット1 ＝ 工場出荷状態へ戻します。
2. アンテロープボタン ＋ プリセット2 ＝ キャリブレーションモード (10M校正)
3. アンテロープボタン ＋ プリセット3 ＝ デバイス情報表示を表示します。

8. プリセットボタン(1-5)

5つのプリセットボタンにはお好みの設定が記憶できます。

1. コントロールパネルから設定
   キーボードのCtrlキーを押しながらフロントパネルの任意のボタンを押す
   キーボードのCtrlキーを押しながら1～5の数字キーを押す
2. プリセットの呼び出し
   呼び出したいプリセットを記憶したボタンを押すだけです。

6. リアパネル



9. Mains Power Connection

付属のAECコネクターで本機とコンセントをつなぎます。
電圧は95～245Vまで自動対応しているので世界中で電圧を気にせず使用できます。

10. Word Clock Input

本機をスレーブとして、外部ワードクロックに追従させるために使用するBNC端子。

11. 10M Input

一般的な水晶の10万倍の精度を誇る、10MHz アトミック・クロック (10M 10MX等) を接続し更に精度を高めることが可能です。10M接続時にはアトミック・クロック同期ロックLEDが点灯し、10Mがプライマリータイミングリファレンスとして動作、音のディティールを極限まで引き上げます。

12. Word Clock Outputs

4つのBNC端子から Orion32 をマスターとしてワードクロックを供給できます。

13. S/PDIF Input/Output

S/PDIF (75Ω) 端子を持つデジタル端子と接続できます。

14. ADATコネクター

2つの入力端子と2つの出力端子(最大各端子8チャンネル)

15. MADI インプット / アウトプット

1つの MADI 端子で入出力各端子、最大64チャンネル

16. ハイスピードUSB

Orion32 はタイプBのUSBコネクターにより、最高192kHzのサンプリングレートを
Windows/Macへ直接ルーティングすることが可能です。

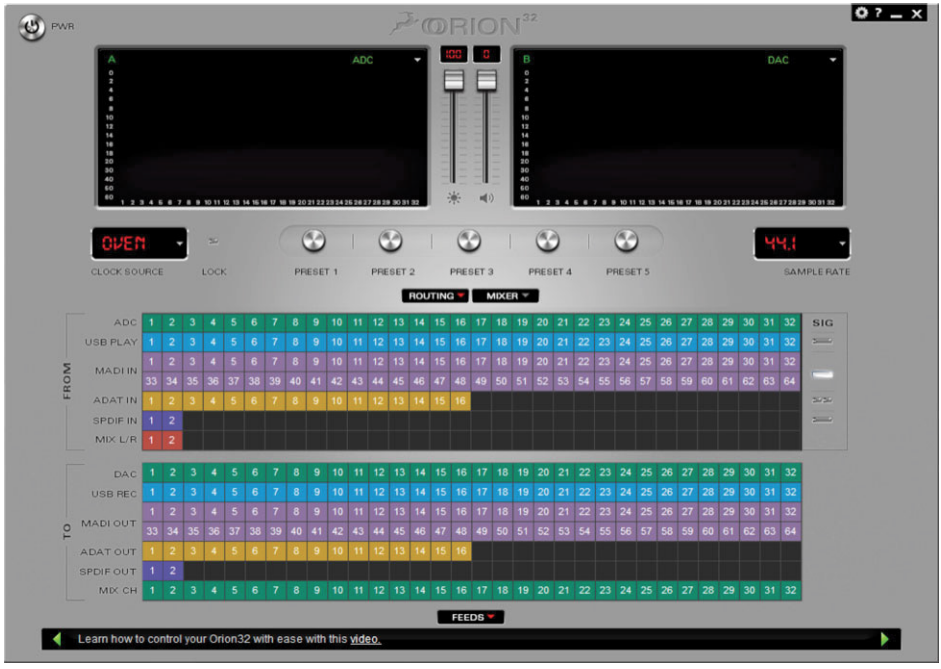
17. D-SUB 25ピン アナログ出力端子 (上段)

4つのコネクターには1本8チャンネルのD-sub端子のケーブルを接続します。(TASCAM互換)

18. D-SUB 25ピン アナログ出力端子 (下段)

4つのコネクターには1本8チャンネルのD-sub端子のケーブルを接続します。(TASCAM互換)

7. ソフトウェア・コントロールパネル

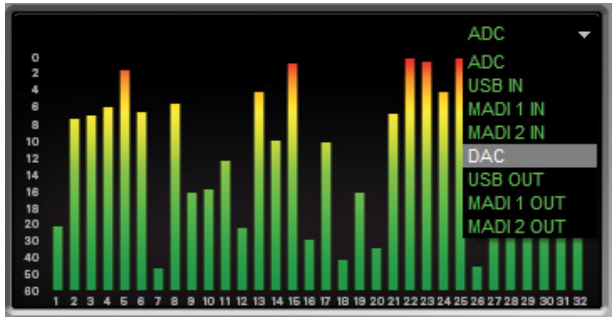


1. 電源ボタン

ボタンを押すごとにスタンバイとオンの切り替えができます。

2. ディスプレイ

2つの独立した正確な32トラックのピークメーカーがそれぞれ、ドロップダウン・メニューから表示させたいソースを選択し割り当てることが可能です。



3. ディスプレイ輝度コントロール

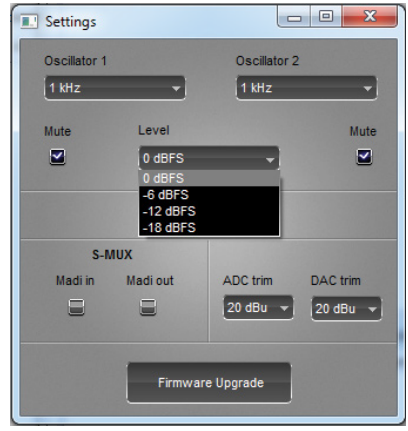
輝度調整スライダーでピークメータのディスプレイの明るさ調整が出来ます。

4. DA volume control

スライダーボリュームでDAの出力レベルを一括でコントロールできます。

5. セッティングとインフォメーション

歯車マークをクリックするとセッティング画面が開きます。
Orion32 にはテストトーン・オシレーターが2基用意されており、同時に異なる2つの周波数でテスト信号を送ることが可能です。また、送り出したいレベルをそれぞれ調整でき、ミュート機能も搭載しています。



S/PDIF SRC ONボタン

このボタンをクリックすると S/PDIF からの信号入力のサンプルレートを瞬時に Orion32 の動作しているレートに合わせてます。例えば Orion32 が192kHz で動作しているときに 44.1kHz の S/PDIF 信号を接続したい場合、シンプルにこのボタンを押すだけです。

USBチャンネルモード

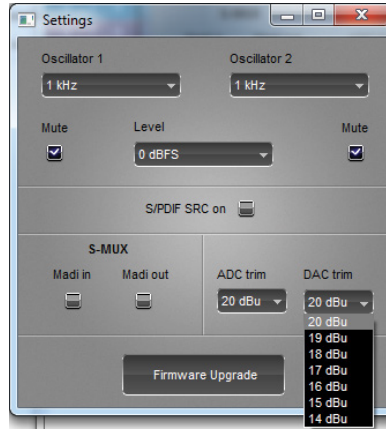
96kHz 以上で操作する場合 Mac ユーザーは、Mac の対応周波数の関係上、必ずUSBチャンネルを 24 に設定してあることをご確認下さい。

MADI in S-MUX / MADI out S-MUX

Orion32 の出力が S-Mux または S-Mux MADI で接続する場合はこのボックスをチェックして下さい。

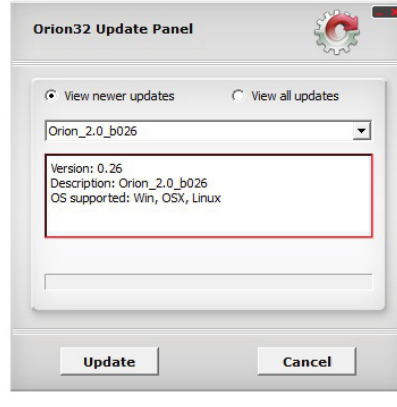
ADC / DAC Trim

AD/DA のアナログ入力とアナログ出力乃レベルをドロップダウンメニューより14～20dBu の値で調整することが出来ます。

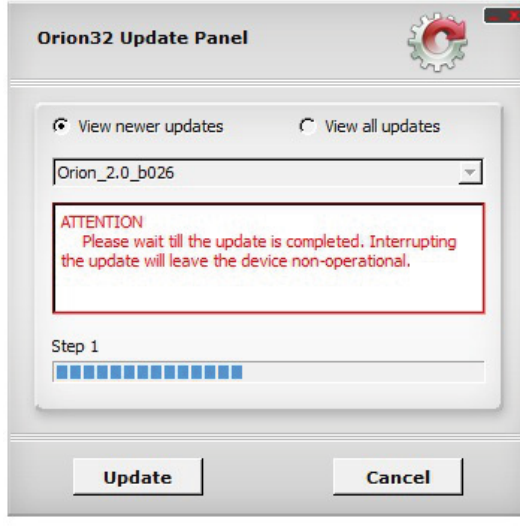


ファームウェアアップデード

1. ソフトウェア･コントロールパネル右上の歯車マークからセッティングを開きます。
2. Firmwawe Update ボタンを押します。
3. Orion32 のアップデートパネルが開き、更新があるかどうか、探します。



4. Orion32 本体のディスプレイに " LOADER " と表示されます。
5. 現在お使いのものよりも新しいバージョンのファームウェアがある場合、
" View newer updates " と表示されます。もし以前のバージョンへ戻したい場合、
" View all updates " で一覧を表示し戻したいバージョンを選択します。
6. Update と書かれた左下のボタンを押して、アップデートを開始します。
7. アップデートが監視され、進歩状況が表示されます。完了まで少々時間がかかりますが、
作業中は他の操作を行わないで下さい。



8. アップデートが正常に完了すると、9. のメッセージが表示されます。画面の説明に従って
一度電源ケーブルを抜き、再び挿し直してから Orion32 を再起動して下さい。この手順
はとても重要です。
9. Congratulations, you have successfully updated Orion32.

'About' Window について:

歯車マークのとなりにある '?' マークをクリックすると、ソフトウェアコントロールパネルの
バージョンを確認できます。このウィンドウからは製品の登録
や、Facebook、Twitter、Antelope Audio 製品のフォローも可能です。是非ご利用下さい。

6. クロックソース

このドロップダウンメニューでは、Orion32 と多機能やソースとの動機を管理します。Oven / 10M (10Mの有無は問わず) は内部クロックによる同期、W.C (ワードクロック) は外部機器に対して Orion32 がスレーブとして同期、MADI 、ADAT、S/PDIF ではそれぞれデジタル入力信号に追従します。

10M 接続された場合ドロップダウンメニューが OVEN から 10M に変わります。

Orion32 は 48kHz 以上のサンプルレートで MADI、ADAT、S-MUX をサポートしています。次の表にはMADI と ADAT を本機に接続する際の出力に関する様々なオプションを記載しています。

Clock Source Mode	MADI Configuration	
	Sample Rate	Channels
MADI	44.1 kHz	64 ch
	48 kHz	64 ch
MADI 2X	88.2 kHz	32 ch
	96 kHz	32 ch
MADI4X	176.4 kHz	16 ch
	192 kHz	16 ch

ADAT のクロックオプション : ADAT 2X や ADATA 4X を選択した際、S-MUXが自動的に有効になるようなチェックボックスはありません。

Clock Source Mode	ADAT Configuration	
	Sample Rate	Channels
ADAT	44.1 kHz	8 ch
	48 kHz	8 ch
ADAT2X	88.2 kHz	4 ch
	96 kHz	4 ch
ADAT 4X	176.4 kHz	2 ch
	192 kHz	2 ch

7. ロック表示

点灯している状態は Orion32 に入力されたデジタル信号に正常に同期している状態を表します。

8. プリセットの保存

5つまでお好みのプリセットを保存できます。保存した設定はボタンから簡単に呼び出しができます。保存方法は以下の通りです。予め保存したい環境を Orion32\でセットしてから行います。

- Hold down Ctrl (PC) / Command (Mac) キーを押したままマウスでコントロールパネル上の任意のボタンに合わせてクリックします。
- または、Ctrl (PC) / Command (Mac) キーを押したままキーボードの1～5の任意の数字キーを押します。

工場出荷状態に戻すには : Orion32 に電源が入った状態で、Antelope ボタンを押したままプリセットボタン1を押し指を離します。次に Antelope ボタンのみを押して、オペレーティングモードに戻します。

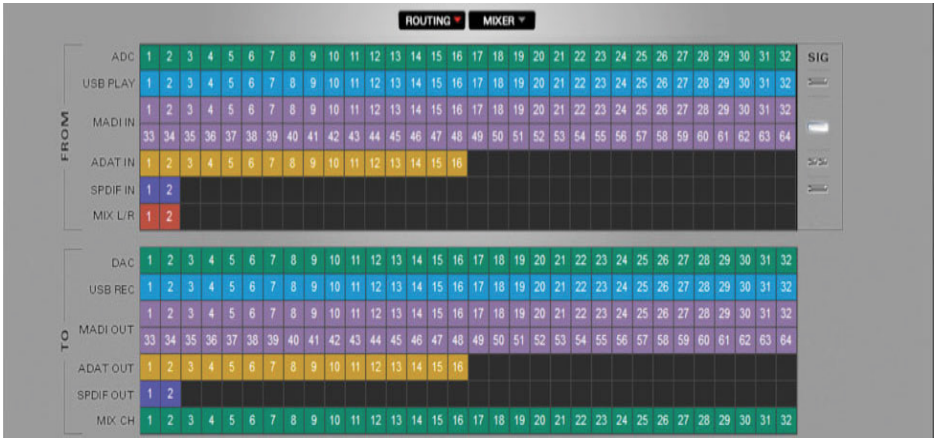
9. サンプリングレート

このディスプレイの表示例では、現在使用しているサンプルレートと 32kHz～192kHz の間でドロップダウンメニューで選択している状態を表します。

10. ルーティング / ミキサー

ソフトウェア・コントロールパネル上でルーティング画面、またはゼロレイテンシーミキサーの表示が可能です。

11. ルーティングミキサー

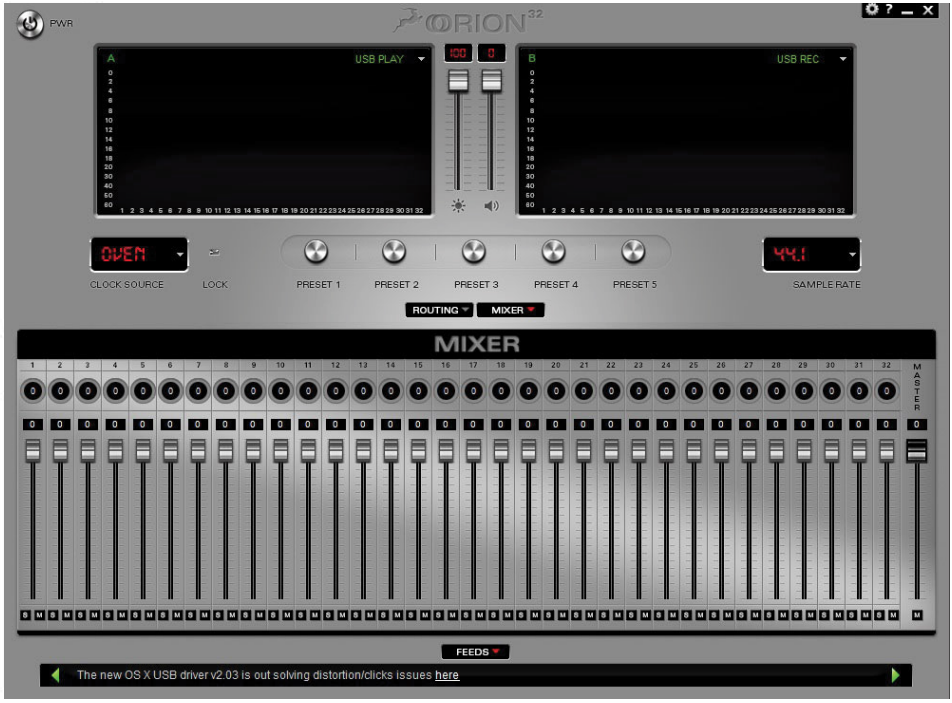


このルーターパネルでは、利用可能日入力チャンネルを選択し、出力チャンネルへドラッグ&ドロップするだけでルーティングを設定できます。入力の種類別に専用の色で振り分けされています。チャンネルのルーティングを行うとき、入力の色は選択した出力へコピーされます。また、複数のチャンネルを同時に選択する場合はシフトキーを押したまま選択したい入力チャンネルをクリックしドラッグ&ドロップします。OUT側の任意のチャンネル上で右クリックするとチャンネルミュート、またはセッティングタブで設定した2つの異なるクロック周波数のいずれかをミュートすることが可能です。

Inputs / Outputs ルーターの右側に Orion32 が検出した有効な入出力がカラー表示されます。クロックソースとサンプルレートが選択されると、自動的に使用可能jなチャンネル数にルーティングされます。

Orion32 が別のクロックソース (USB等)にスレーブ時、パネルウィルロック機能により、「パッドロック」と表示され、使用者にもプリセットの変更を無効にさせます。これによって機能上の安全のためにサンプルレートやプリセットの変更を防ぎます。

12. 低レイテンシーミキサー



低レイテンシーミキサーは、0に近いレイテンシーでのミキシング及びモニタリングを実現させ、コントロールパネルを使った振り分けが可能であり、Orion32 のどの出力からでも低レイテンシーミックスのアウトプットが可能です。

例えば、USB再生32チャンネルをミックスチャンネルとして設定し、そのMIXL/R入力をDAC1-2へ繋ぎ、DACのチャンネル1-2へステレオバスを供給することが可能です。

この低レイテンシーミキサーは本物のミキサー同様のソロ、ミュート、パン、フェーダーやマスターフェーダーによるボリュームレベルのコントロール等、基本操作が可能であり、簡単にステレオミックスが作成できます。

Maximum Number of Channels per Sample Rate:

Sample Rate	MADI	USB	ADAT	S/PDIF
32 kHz	64 ch	32 ch	16 ch total / 8 ch per line	2 ch
44.1 kHz	64 ch	32 ch	16 ch total / 8 ch per line	2 ch
48 kHz	64 ch	32 ch	16 ch total / 8 ch per line	2 ch
88.2 kHz	32 ch	32 ch	8 ch total / 4 ch per line	2 ch
96 kHz	32 ch	32 ch	8 ch total / 4 ch per line	2 ch
176.4 kHz	16 ch	32 ch	4 ch total / 2 ch per line	2 ch
192 kHz	16 ch	32 ch	4 ch total / 2 ch per line	2 ch

8. 高度な技術仕様

8.1. グランドループハム・ノイズ

Orion32 はこれらを最小限に抑える設計をしていますが、オーディオ信号を扱うケーブルは出来る限り短く、シールドを持つバランスケーブルの使用を推奨します。また、電源の接続は専用電源、またはノイズフィルターを内蔵したコンセントをご利用下さい。電源ケーブルと音声ケーブルを並行に引き回すのもノイズの原因となりますので分けて配線して下さい。

8.2. キャリブレーション (校正) の手順

Orion32 の内部クロックは弊社ルビジウムクロック 10M 等に接続することでキャリブレーションをご自身で行うことが出来ます。必要に応じて以下の手順に従ってキャリブレーションを行って下さい。キャリブレーションを頻繁に行う必要はありません。

- 10M を Orion32 の10M外部入力BNC端子に接続します。
- 10M の電源を入れ、10M が安定動作温度に達するまで待ちます。
- Orion32 がスタンバイモードの状態で Antelope ボタンを押したままプリセット2ボタンを同時押しします。
- ボタンから指を離してユニットが安定するまで1分ほどお待ち下さい。
- ディスプレイに" Calibration " の文字と " Heating Up " ならびにオーブンの温度が表示されます。
- キャリブレーション実行中は、そのままお待ち下さい。
- もし、エラーが表示された場合は 2番のボタンを押して一度キャリブレーションを終了させて下さい。
- キャリブレーションが無事、終了すると本体画面に " DONE " の文字が表示されます。

9. 追加情報

オペレーティング・システム、オーディオソフトウェア、メディアプレイヤー等に関する最新情報は弊社ホームページのサポートにてご確認下さい。
www.antelopeaudio.com

10. 同梱品

- Orion32 本体
- オーナーズマニュアル
- 保証書
- 電源ケーブル
- USBケーブル

11. 技術仕様

Inputs	
Analog Inputs	4 x D-SUB 25 (32 channels), +20 dBu max, 11.2 kOhms
Digital Inputs	1 x Fiber Optic MADI 2 x ADAT 1 x S/PDIF
Atomic Clock	1 x 10M Input@ 75 Ohms 1Vpp on BNC
Word Clock	1 x Input@ 75 Ohms 3Vpp on BNC 32 - 192kHz
Outputs	
Analog Outputs	4 x D-SUB 25 (32 channels), +20 dBu, 56 Ohms
Digital Outputs	1 x Fiber Optic MADI 2 x ADAT 1 x S/PDIF
Word Clock	4 x Outputs@ 75 Ohms 3Vpp on BNC 32 - 192kHz
USB 1/0	USB 2.0 Hi-Speed; Data stream up to 480 Mbits/192kHz, 32 channels 1/0, Type B
D/A Converter	
Dynamic Range	11BdB
THD + N	-98 dB
AID Converter	
Dynamic Range	11BdB
THD + N	-105 dB
Clock Specs	
Clocking System	4th Generation Acoustically Focused Clocking 64-bit DDS Oven Controlled Crystal Oscillator
Clocking Stability Clock	<+/-0.02 ppm, oven controlled at at 64.5° C/ 148.1° F
Aging	< 1 ppm / 年
Clock Calibration	<+/-0.001 ppm
Atomic Clock Input	10MHz
Sample Rates (kHz)	32, 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192
Additional Infomation	
Operating Temperature	0-50° C / 32-122° F
Weight	3 kg / 6.6 lb approx.
Dimensions (approx.)	Width: 483 mm / 19" Height: 44 mm I 1.75" Depth: 220 mm / 8.66"
Power Supply	AC Universal input 95-245 V
Power Consumption	20 Watts Max

12. トラブルシューティング

起動・サウンド

最新のコントロールパネル・ファームウェアに更新済ですか？

未更新の場合は最新版へアップデートして下さい。

USBモード時に最適のオペレーションシステムとサンプルレートの設定を行っていますか？

Mac OSX を使用している場合のみ、96kHz 以上のサンプルレート操作時、必ずUSBモードが24チャンネルに設定していることを確認して下さい。

ルーティングパネルを通してオーディオ信号の正しいルーティングが出来ていますか？

ISB再生時、上の部分を下の部分へドラッグ&ドロップして、USB再生チャンネルをDACチャンネルへルーティングして下さい。Orion32 のルーティングに関して詳しい情報は Antelope Audio YouTube ページ上のコンテンツ "Roouting with ease" を参照して下さい。

DAW・PCのサウンドカード、Orion32 の全てにマッチしたサンプルレートを設定していますか？

Mac を使った場合、サンプルレートがオーディオMIDI設定で正しい数値に設定されているか確認して下さい。DAW のサンプルレートを確かめてから最後に Orion32 のサンプルレートを確認して下さい。
Windows の場合、再生デバイスの設定を確かめてから Orion32 に右クリック、プロパティを選択してアドバンスドタブ画面へ移動して下さい。同手順で DAW と Orion32 のサンプルレートを確認して下さい。

接続

- 入力から信号が受信されない、または出力から送信されていない場合
- ソースを確認、ソースから信号の送信が確認できますか？
- ソースは Orion32 の受信できるサンプルレートに設定されていますか？
- クロッキングモードを確認して下さい、ソースからクロックシグナルの受信はできていますか？
- Orion32 コンテンのロックは点灯していますか？
- 可能であれば別のケーブル・ソースで試してみて下さい。
- コントロールパネル上のルーティングを確認して下さい。信号のパスは正しくルーティングされていますか？
- 信号をルーティングミキサーにルーティングした場合、該当するフェーダーが上がっているか確認して下さい。
- コントロールパネル上の関連するピークメーターをドロップダウンメニューから選択し確認し、信号の受信または送信がされているか確認して下さい。

DAW

もし128サンプル以下の低い値にバッファサイズを指定している場合、設定値を上げてみて下さい。バッファサイズの変更は Orion32 のコントロールパネルから行って下さい。

DAW 内のインプット・アウトプットルーティングは間違っていませんか？
DAW のサウンドカード環境設定で Orion32 が選択されていますか？

もし、Orion32 がDAWによって認識されい場合、USBケーブルを一旦抜き差ししてPCを再起動したあと、ファームウェア、ドライバ、コントロールパネルを再インストールして下さい。

13. サポート

Antelope Audio はハードウェア、ファームウェア、ソフトウェアコントロールパネル等、幅広いサポートサービスを提供します。

FAQ
よくある質問を弊社ウェブサイトにて公開しております。お困りの際にはご参照くださいませ。
http://www.antelopeaudio.com/en/support

お電話からのお問い合わせ
一般的な質問やテクニカルサポートはこちらまで : 03-5530-8476
受付時間 : 午前10時〜午後6時 (日本時間 土日祝除く)

サポートデスク ※非日本語対応
下記のウェブサイトより「発券」して頂くと、24時間以内に対応させていただきます。
www.antelopeaudio.com/en/support/help-desk

ライブチャット ※非日本語対応
カスタマーサポート担当者とこちらのページからご接続下さい。
http://www.antelopeaudio.com/en/support
ページ右側の Antelope タブをクリックして下さい。
受付時間 : 午前7時〜午後3時（EST）

サポート資料・ソフトウェア
全てのデバイスマニュアル、データ資料、ソフトウェアはこちらからご参照ください。
http://www.antelopeaudio.com/en/support/downloads

コントロールパネル・ニュースフィード
ソフトウェアコントロールパネルの下部にはニュースフィードがあり、最新の情報や該当する情報が表示されます。

YouTube Page
製品のチュートリアル、インタビュー、ユーザー事例や、最新の製品情報等を掲載しています。
http://goo.gl/yfOmZf

Web Blog
最新のユーザー事例等、役立つ情報を更新するブログです。
http://www.antelopeaudio.com

Notes

Notes

Antelope

Owner's Manual

ORION 32

32 CHANNEL AD/DA CONVERTER

WITH **AFC**™ CLOCKING TECHNOLOGY

www.AntelopeAudio.com

Version 1.1 / 26.04.2013